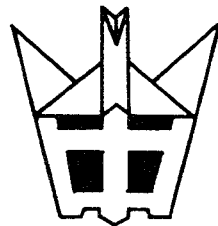


シリーズ 学校紹介



都留第一中学校は、都留市大野五二―五番地（海拔五一〇m）に所在しています。

生徒総数五五一名（男二五五名女二九六名、57年8月1日現在）十四クラスと谷村中学校時代の約半数になっています。

これは、昭和四十年四月に都留第二中学校の統合により、学区が変更されたことによるものです。都留第一中学校は、昭和二十二年四月に町立谷村中学校として、十二学級で開校し、昭和二十九年



都留市制施行に伴い市立谷村中学校となり、昭和四十年四月に都留第一中学校と校名を改称し、現在に至っております。

ゆとりある教育

課程を探索

都留一中では、「自ら学び、考える生徒」「人と自然を愛する生徒」「最後までやりぬく生徒」「健康でたくましい生徒」を四つの柱として、人間性ゆたかな生徒の育成を目標にしています。

この目標をふまえ、生徒のもつエネルギーと将来に対する可能性に期待をもち、師弟同行の実践活動を積極的にするため、クラブ活動への全員参加、課外活動としての徒歩遠足など、ゆとりある教育課程の探索に努めています。

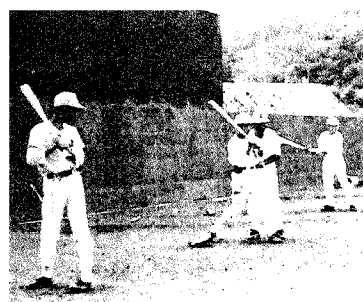
特に同校体育館が、かいじ国体の成年男女バスケットボールのメイン会場に、また隣の市営住吉球場が軟式野球少年部の会場になっていることもあって、クラブ活動は最近とくに活発になっています。

教育の荒廃からの 脱却に向けて

全国を席巻した「校内暴力」「家庭内暴力」も最近になって、ようやく下火になったかの観を呈しています。

しかし、いつ再燃するか分らないこれらの問題について、学校とPTAでは、その原因究明、対処策、アフターケアに、総力をあげて、まきしく血みどろの取り組みを展開しています。

教師と生徒の心のきずなの結末のため、様々な方法論に基づく実践活動はひとときも絶えることなく繰り返されていますが、生徒の心の深部に巣食う暗い影を取り除くためには、言葉のもてあそびは余りにも無力であることから、生徒の悩みごと相談などについても体で当って心を開いてやるという積極的な取り組みを大切にしています。



古いゆかりよびかける

“すみよしの里”

都留一中校長 平井 健一

苦楽を共に、勉学に勤労にはげみ、規律正しい生活に、よりよい伝統を育くむ都留一中の校訓に親しむその支えは「やる気」と「たえぬく気力」である。

昭和五十六年中学校の教育課程改訂の基本精神や、生徒の現実を考える中で、本校教育目標を確定し育成目標を明確にした。その目標はもとより教育という人間と人間との営みから、生徒のもつエネルギーと将来に対する可能性に期待をもち、具体的な行為目標をもち、師弟同行の、共に考え、共に汗する実践活動を積みかさねることにより愛情もよりたしかめられ信頼感も強まり目標達成も可能であろうとの認識をたしかめたものである。

生徒会活動においては「朝の挨拶はさわやかに、夕べの挨拶は心をこめて」をモットーに部活動に積極的に参加し、「都留一中ここにあり」の気概のもと青春の力をばさばさに出しつつある現状である。

集会活動も全校的なもの、学年毎のものとなり、実践の効率を図っている。例えば、春に実施している校外指導（遠足）などについても、学年生徒会の計画により、「春の自然に親しみ協同の楽しさを」と、溪谷にキャンプをはり、共同炊さんを通じて笑のある仲間づくりをと発想の転換をはかっている。溪谷にキャンプをはり、問題のあった生活指導においても、「開かれた学校」という発想のもとに、きめの細い地域懇談会の実施を通して、或は学校参観を通したり、地域での現状を観察する中で懇談しあい、互に教育力を高める努力をPTAがしている。問題毎に父兄会を開いたり、スポーツ部門の父兄会を構成し、生徒と肌をつき合せながら、子の願い親の願いを話しあう中で生活の向上を希求している現状である。

